

知床世界自然遺産地域連絡会議 適正利用・エコツーリズム部会との合同開催を含む「
適正利用・エコツーリズムWG」の検討結果と決定内容

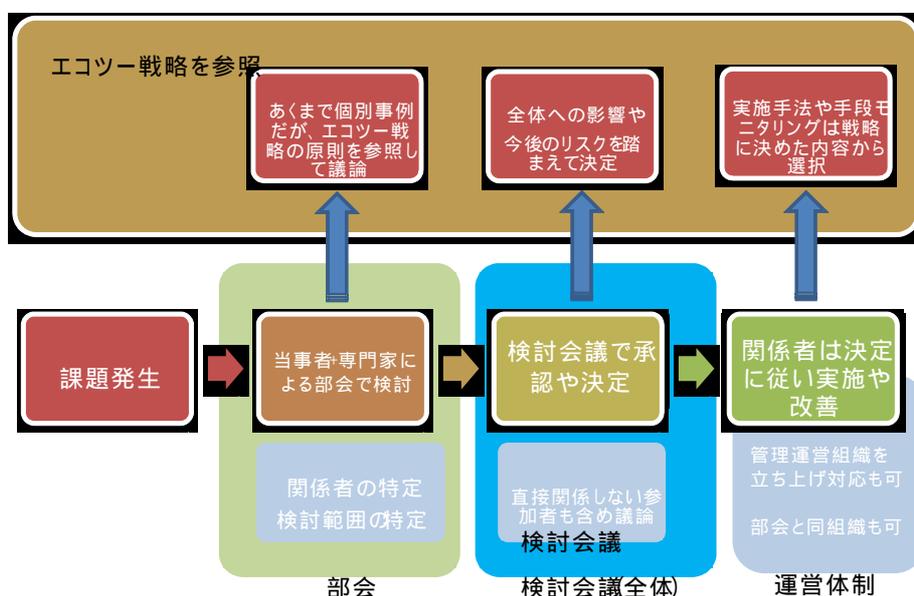
1 知床エコツーリズム戦略

(現状)

知床エコツーリズム戦略の内容を H23 年度内に確定すべく。起草段階に入っている。
現在文案を地域関係者を含めて分担執筆中である。

(決定)

知床世界自然遺産地域の観光資源の活用とその保全および全体的な管理について決定して行くための、共通目標、決定手順、決定の際の基準、決定への関与を示す戦略になる。



地域内の個別会合の検討会議への統合(それぞれ会議の下にある「部会」とする)



地域関係者への情報公開と新たな決定過程の導入に関する説明や合意の形成
地元自治体の事務局側(検討会議事務局)への主体的参加と主体化
ヒグマ保護管理方針検討会議からの引き継ぎ時期について

2 部会からの報告

・ウトロ海域部会

平成23年5月18日、過去に繁殖が確認されているコケシ岩付近(断崖から約15m、水深約5m)に、再度ケイマフリの営巣地として利用させ個体数が増加することを期待して、海上デコイを設置した。海上デコイは、海上につがいで浮かんでいる様子を模して、2羽一組になったもので、ウトロ漁業協働組合及び専門家の協力を得て実施した。その後の観察によると6月19日に、コケシ岩付近でケイマフリの給餌とみられる行動が確認された。しかし、営巣・抱卵の期間を逆算すると、デコイ設置前に営巣を始めていた可能性もあり、一概にデコイ設置の効果とまでは言えない。今後は、状況を見ながら海上デコイや陸上デコイの増設を検討していく。

ケイマフリについて利用者への周知を図るため、各事業者に余ったデコイを配布し、営業所にケイマフリコーナーを設置したり、観光船等での広報を進めている。また、専門家の調査中に観察された海鳥の情報について事業者が発信することで、旬な情報や時期に応じた海鳥の紹介が出来るような体制が作られている。

今後は、海鳥調査及び利用動向調査等の結果をふまえて、持続可能な海域利用についての今後の取り組みを検討していく。

・羅臼湖部会

平成23年度は地元関係団体との現地踏査により、付替ルートの選定を実施する(6月から8月を中心に踏査を実施)。また、歩道の付替・再整備、維持管理体制、アクセス等についても引き続き検討を進める。

・知床五湖地区

【知床五湖利用調整地区制度開始】

平成23年5月10日から知床五湖地上遊歩道の利用調整地区制度運用が開始された。知床五湖の利用のあり方協議会(以下「五湖協議会」という。)において、利用適正化計画の進捗状況の確認を実施し、同計画の一部修正に向けた検討を開始している。また五湖協議会の部会である知床五湖登録引率者審査部会において来年度登録の新規登録引率者候補者(6名)の養成研修を実施中。

知床五湖地上遊歩道の立入り認定施設である知床五湖フィールドハウスの管理運営に指定認定機関(知床財団)に加え、7月の1ヶ月間登録引率者紹介カウンターをガイド協議会が設置している。

【知床五湖冬季利用】

知床エコツーリズム推進協議会では、平成22年度までに3カ年の知床五湖冬季利用の試験実施を終了し、平成23年度から本格運用を開始する予定。

知床五湖の課題を扱う2つの協議会は、本検討会議の部会の位置づけになっておらず、部会への整理するよう調整・検討を進める。

・カムイワッカ地区

知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会（以下、「マイカー規制協議会」という。）では、6年ぶりの道道知床公園線（知床五湖～カムイワッカ区間）の供用再開に対応し、新たな利用法について定め、平成23年6月1日よりマイカー利用が再開された。また平成23年度から3カ年の試行で、計35日間のマイカー規制を設定した。

道道知床公園線カムイワッカから硫黄山登山口間の利用については、網走建設管理部の道路特例利用承認の運用により6月25日から8月25日の期間、登山利用者の通行を試験的に可能となり、硫黄山や知床連山の利用が可能となった。運用結果を見て来年度見直しを行う予定としている。

カムイワッカの課題を扱うマイカー規制協議会及び湯の沢利用対策連絡協議会の2つの協議会にて、本検討会議の部会として協議の場の統合を行うことで合意しており、平成23年度内の統合を目指している。

3 会議等の開催結果

平成23年6月17日 平成23年度 検討会議を開催。

4 今後の主な予定

起草部会を9月に開催

第2回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議 10月開催予定

第3回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議 翌年2月開催予定